

令和6年度 調布市立神代中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標		
一、自ら学び、考える人 一、礼節を重んじ、思いやりのある人 一、心身ともに健康な人		
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像,教員像,児童・生徒像		
「だれもが自分のことも、他の人のことも大切にする学校」「不易流行で進化する学校」		
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	本校は都内有数の大規模校であり、市内で最も歴史のある中学校である。大規模校であるが故に、個が埋没してしまうことがないよう、一人ひとりを尊重する人権感覚・人権意識が求められる。また、歴史のある学校だからこそ、伝統をただ単に継承していくのではなく、伝統を重んじながらも状況に適応し、変化することでさらなる進化を遂げることが重要である。教育活動を多面的・多角的に捉え、不易流行の精神を以て、「より良い変化」に、果敢にチャレンジしていくことが求められる。	
教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	他者とのコミュニケーションに生かせる豊富な語彙を身に付け、自分の考えを表現する力、相手の意図を理解しやり取りする力を身に付ける。	話し合い活動、スピーチ、文章を書く機会を意図的・段階的に設定する。社会の問題を取り上げ、それに対する考えをもたせる。いろいろな意見を批評できるようにするため、根拠をあげて発表できるようにする。
社会	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を通し、社会的な見方・考え方を育てる。	毎授業において学習のねらいを明確にし、振り返りの機会を設ける。「社会的な見方・考え方」を働かせて、課題解決を図る場面を設定する。深い学びのために、年3回の休み明けテストを行い、基礎学力をつける。
数学	問題解決に必要な情報を生徒自身が集めたり選択したり帰納的に考えたりすることで、きまりを見付けたり、見出したきまりを、既習内容を生かして説明したりできるようにする。	単元ごとに、説明する問題を設定し、既習事項を生かして説明する機会を設ける。単元の振り返りで、既習事項を整理させ、次の単元とのつながりを意識させる。
理科	自然事物・現象に対する興味関心を高め、基礎的な学力の定着を目指す。また、実験・観察を行い、その結果を分析し解釈し表現できる力を身に付ける。	視聴覚教材を取り入れながら日常生活と学習事項との関わりを示し、自然事物・現象に対する興味関心を高める。観察・実験の機会を増やし、結果に対する考察を個人で考えて各班で共有してまとめさせ、発表させることで思考力・判断力・表現力等を育む。
音楽	主体的に音楽の特徴を捉え、合唱や鑑賞等で表現につなげる力を養う。特に歌唱活動においてより良い作品を作り上げるようこれまで学んだことを生かす力を身に付ける。	鑑賞のみならず、歌唱・創作・器楽等の中から知識を深めさせ、基本となる音楽的諸要素と表現活動のつながりに「気づく力」を育成する。そこで学んだことを歌唱・器楽に生かし、更に音楽への興味を深めさせる。
美術	主題や表現意図を明確にし、自分の表現に対する考えを説明したりできるようにする。自他の作品のよさを感じ取り、説明したりできるようにする。	表現の説明を整理して言葉で説明する機会を設ける。また、鑑賞活動の充実を図り、色々な作品のよさに触れさせる機会を設ける。表現活動と鑑賞活動の連続による、より深い活動ができるようにする。
保健体育	自身の健康や体力に関心を持ち、主体的に課題を解決しようとする力を身に付けさせる。また、集団で行う運動を通して、規範意識と協調性を身に付けさせる。	健康・安全を第一に考え、準備運動・補強運動に取り組む環境をつくる。また、仲間に対して技術的な課題や有効な練習方法の選び方について指摘しあう環境をつくる。新体力テストを基に自身の健康への関心を高める。
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や、生活や社会の中から問題を見出し、課題を解決していく力を養う。	生徒自身に生活や技術に関心をもたせながら、製作、制作、育成、実習、観察・実験、見学、調査・研究などの実践的・体験的な活動を通して、習得した知識・技能が生活の自立につながることに気付かせる学習活動を組み立てる。
外国語(英語)	英語を通して異文化に触れ、物事を多面的・多角的にとらえる能力を育成する。また英語による表現で、思考力・表現力・判断力を育成する。	二言語の物事のとらえ方や表現、発想の違いを授業の中で取り上げる。生徒が英語を発話する際に、自らの考えを表現する機会を作る。間違いに気づき、修正しながら発信していく力を身につける。
道徳科	調布市の重点項目である「生命尊重」の態度を身に付けさせるとともに、本校の教育目標にある「礼節を重んじ、思いやりのある人」を育成する。	主体的に考え議論する道徳を目指し、個別最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を実現する。4・12月に「生命の尊さ」、ふれあい月間に「思いやり」「友情」「相互理解・寛容」、について道徳担当教員を中心に ICT を活用した指導の充実を図る。